

東北次世代がんプロ養成プラン セミナー実施報告書

(セミナー名称)	
講演者	: 熊谷香織、横田則子
所属	: 宮城県立がんセンター、東北大学病院
テーマ	: がん患者・家族とのコミュニケーションにおける課題と工夫
担当者氏名: 佐藤 富美子 教授	所属: 東北大学大学院がん看護学分野
内線: 7926	Email: <a href="mailto:fsato@med.tohoku.ac.jp">fsato@med.tohoku.ac.jp</a>
1. 実施年月日:	
令和 3年 10月 21日	
2. 開催場所:	
ZOOM	
3. 関連分野:	
がん看護、コロナ禍におけるコミュニケーション	
4. 対象者:	
一般の方々、医療従事者、学生等、どなたでも	
5. 参加人数: (お分かりの範囲で内訳をお知らせください。教員、学生など)	
参加者 66名	
6. 成果:	
<p>今回の講演会は、コロナ禍のためオンラインシステムを利用した講演会となった。講演者は、本学のがん看護専門看護師コースを履修していた修士課程の修了生である。コロナ禍にあり、実践されたコミュニケーションについてご講演いただいた。</p> <p>講演では、面会制限によって患者に会うことが制限された家族のケース、予後が短いにも関わらず療養先について検討することが困難だったケース、患者が治療適応ではないことに家族が納得しなかったケース、予後が短い母親役割のある患者および家族を含めたスピリチュアルペインを要したケースについて報告された。いずれの事例もコロナ禍によってコミュニケーション制限により、常時のケアが困難だったケースであった。</p> <p>コロナ禍にあるコミュニケーション制限への工夫として、患者や家族が希望する形態のデバイス（電話、メール、SNS、手紙など）を用いること、積極的にコミュニケーションをとって試みることの重要性が提案された。</p>	

【当日の会場の様子などの写真がございましたら、添付ください】

マスク着用がコミュニケーションに与える影響

- マスク着用が相手の感情誤認を増やす  
(Marco Bani,2021)
- 嫌そうな顔を怒っていると誤認したり、  
楽しい、悲しい、怒っているなどの多くの感情を  
中立的な感情と認識したりするなど、相手の感情  
への評価の正確さが低下する  
(Claus-Christian Carbon,2020)

新型コロナウイルス感染症による  
がん看護実践への影響

- 面会制限により家族へのケアが行えない
- 退院支援が困難
- 対面での面談やがん相談が困難
- がんサロン・患者会の中止
- CNSとしての横断的な活動や多職種チームでの活動の縮小
- 研修会・実習受け入れなど教育機会の制限

患者・家族ケア  
に関すること

日本がん看護学会：新型コロナウイルス（COVID-19）感染症拡大によるがん治療・看護への影響に資する緊急調査結果報告  
（2020年6月31日）